

# “なりたい自分になる”

# 先輩女子が答えます!! 夢の扉を開くQ&A



**答える人** 星野恵理さん Eri Hoshino  
**平成15年度 電子情報工学科卒業(工業高専)**  
 中学の頃から、どちらかというと文系志向だったという星野さん。高専時代は勉強に動みながら、5年間硬式テニスの部活動にも情熱を注いだそうです。警察官になりたいと思っていた時期もあり、柔道部にも2年間在籍したという、まさに文武両道のキャンパスライフ。  
 硬式テニス部で活躍していた星野さん

## 教えて! どうして産技高専を受験したの?

もともと文系だった私が  
 母のすすめで高専に。  
 就職率の高さが魅力でした。

中学時代から大学に進む考えはなかったのですが、それ以外の選択肢を探していました。早く就職したいと思っていましたが、高卒ではやりたい仕事に就くのは難しいだろうと考えていたときに、母に「高専」という道があることを教えてもらいました。電子情報工学科は当時は新設されて3年目のコースで、先進的なイメージがあり就職先にも困らないだろうと、受験することを決めました。

**Q** 産技高専を希望したとき、中学校の先生はどんな反応だった?  
**A** 中学校の担任の先生は心配していました(笑)。  
 両親は応援してくれましたが、文系志向だった私に高専の受験は難しいのではないかと、当時の担任の先生が心配していました。そのため、他校を受けるつもりはなかったのですが、私立高校も受験しました。

**Q** 産技高専時代に読んで、面白かった本は?  
**A** 学校の図書館で毎日のように本を借りていました。  
 学校の図書館の蔵書がとても充実していて、毎日通っていました。図書館だと、ふだんは自分で選ばないような本も気軽に手に取れるので、読書の幅が広がりました。なかでもその頃映像化されたシドニー・シュルダンはむさぼるように読んでいた記憶があります。

**Q** キャンパスにあった実習設備で、すごいなあと思ったものは?  
**A** 「電波暗室」はすごかったです。  
 私は通信系の研究室にいたので、地下にあった「電波暗室」をよく利用しました。携帯の電波が完全に通らない無音の環境で、他の高校ではこんな環境はまずないだろうと驚きました。産技高専にはそんな設備がいろいろあって面白いです。

**Q** 卒業まで5年間。長いと感じた? それとも短かった?  
**A** 5年間は意外と長いけど、クラスメイトは家族のような存在に。  
 一般の高校に比べれば長いですが、特に私の学科では一度もクラス替えがなかったため、クラスメイトとはまるで家族のような雰囲気になりました。自分の基礎をつくる大事な時期をともに過ごした仲間とは、卒業後もずっと交流が続いています。

**Q** 実習では作業着を着るの? 慣れてくるととても愛着がわきます。  
 実習では作業着が必要になります。安全性のために着るものなので、着崩したりするのはNGです。でも寒い時期などは防寒着にもなるし、しだいに愛着がわいてくるから不思議です。それから、髪が長い女子は、実習時は後ろで結ぶなど、作業の邪魔にならない工夫が大事です。

**Q** 産技高専を卒業してよかったと思えるところは?  
**A** 一番よかったのは、勉強の仕方を学んだこと。  
 私がもし、普通科高校を卒業して大学進学したとしても、いまの会社に入社するのは難しかったと思います。そして一番よかったことは、社会に出ても必要な「勉強の仕方」の基礎が身に付いたこと。どう調べていくか、どう進めていくかを判断する能力は、仕事の現場でもとても大事です。

**Q** 女性の先生っているの?  
**A** はい。女性の先生とはすごく仲良くなりました。  
 もちろん、います。私は最初の担任が女性の先生でした。フレンドリーで、女子にとってありがたい存在でした。数学のことなど、とても熱く語る先生で、私が数学を好きになれたのは、その先生のおかげです。

**Q** 機械や電気の勉強は難しくなかった?  
**A** 実習を交えて学ぶので、理解しやすかったです。  
 確かに専門用語や公式を覚えなければいけないので大変でしたが、実習も交えて楽しく理解することができます。テスト前などは、先生に気軽に質問できるし、専門分野のことだから「わからない」というのは何も恥ずかしいことじゃないです。みんな一緒に勉強していました。

**Q** 勉強とクラブ活動の両立は可能?  
**A** 産技高専は部活も楽しいので、ぜひ検討してみてください!  
 勉強と両立で悩んだことは特にないです。私の場合、産技高専を選んだもうひとつの理由が、「4年間は部活ができる」というものでした(笑)。高校では3年生の途中で引退すよね。それと、高等学校の全国大会はハードルが高いですが、高専なら全国大会を狙えたりするんです。

**Q** 実習は女子でも無理なくついていける?  
**A** 友だちと一緒にやっていると楽しいですよ。  
 工場の実習では油を使ったり、汚れたり、最初は慣れないかもしれないけど、私は友だちと一緒に楽しみながらやりました。あと、割って飛んできたアルミの粉などから男子がかばってくれたりして、意外やさしさに触れることもできました(笑)。

**Q** 実習などがある分、授業料はやっぱり高い?  
**A** 公立高校に比べれば高いけど、大学分を考えるととてもお得。  
 公立高校の3年間の授業料と比べれば、もちろん高いですが、大学に通う分もひくくると考えれば、相当お得だと思います。就職率も高いし、私自身は就職先企業でも評判が良いと聞きました。そうした先輩たちの実績があるから、私もいまの会社に入社できたのだと思います。

**Q** 産技高専を卒業してよかったと思えるところは?  
**A** 楽しく授業を受けながら、就職のための準備ができる。  
 就職率の高さにひかれて入学しましたが、普通の高校に入っていたら、その後の就職は不安だったと思います。専門知識を身に付けてから就職のための準備ができるし、高専生は就職先企業でも評判が良いと聞きました。そうした先輩たちの実績があるから、私もいまの会社に入社できたのだと思います。

## 教えて! どうして産技高専を受験したの?

高専での5年間で  
 高校+大学の学びができて  
 とてもお得だと思いました。

実は私の兄も、高専卒なんです(当時=工業高専)。兄の高専での話を聞いていて、もともと工学系に興味があったこともあり、中学2年生の頃にはもう「私も高専に」と決めていました。実習が多いという魅力でした。大学受験をしなかったから、中学卒業時に一度受験をクリアすれば、高専で高校と大学の学びを両方経験できて、とてもお得だと思ったんです(笑)。



**答える人** 仲本京さん Miyako Nakamoto  
**平成20年度 生産システム工学コース卒業(産技高専)**  
 幼い頃から机で勉強するよりも、自分の手で何かをつくり触れたりする時間が好きだったという、根っからの工学志向。高専時代は部活でバドミントンに熱中して、現在の職場も「バドミントン部がある」ことが入社を志望する大きな動機になったのだとか。  
 ロボカップジュニアでは世界大会に出場し表彰されました

# Let's go to SANGI

自分の進路について考えるのって本当にむずかしい。  
 “高専”という選択肢も考えてみたいけど、知らないことばかりで不安もいっぱい。  
 でも、大丈夫。都立産業技術高等専門学校の大先輩があなたの疑問に答えます!!

**答える人** 吉田暁海理さん Akari Yoshida  
**平成16年度 機械工学科卒業(航空高専)**  
 もともと技術や美術の授業が好きだった中学生時代。理科科目は「嫌いではない」くらいの感覚だったとか。高専時代は茶室部に入部。高専入学時から卒業後は大学進学を考えていて、国立大学へ編入学。その後、大学院まで進み研究を続けた。  
 「七宝焼」など、文化祭での活動も活発にしていた吉田さん



## 教えて! どうして産技高専を受験したの?

中学3年生の夏休み、  
 体験入学に参加して実習が  
 楽しそうだと思いました。

中学3年生のとき、担任の先生に「高専」という進路があることを教えてもらいました。高専って何? という単純な興味から体験入学に参加して、さまざまな実習があることを知りました。都立高校や他の高専の体験入学にも実際に足を運びましたが、産技高専の機械工学科が卒業後の応用範囲が広そうで一番興味をひかれたんです。機械工学科は女子が少なく、同じ学年では私を含め2名だけでした。

**Q** ものづくりが好きな人は「実習」を楽しめる?  
**A** ものの構造や機構に興味を持つととても面白いです。  
 ものの構造やしくみを知るための講義を受けて、それを踏まえて実習に臨むため、自分の作れるものの幅が広がっていき、どんどん楽しくなってきました。体力的には男子に負けるけど、自分なりのやり方で工夫したり、先生もフォローしてくださるので安心です。

**Q** 産技高専には女子が少ないけど、不便なことはなかった?  
**A** 逆に女子でラッキーと思うこともあり(笑)。  
 私のクラスの女子は2人だけだったけど、何も不便だと感じることはなかったです。女子は人数が少ないから、すぐ先生やクラスメイトにもお話を聞かせるし、女子にはロッカー室があって、男子よりも使えるロッカーが1つ多いこともうれしかったです。

**Q** 高専から大学への進学って難しい?  
**A** ものづくりに携わるなら、高専から大学に行く方が楽です。  
 産技高専の先生に「ものづくりに携わりたければ、高専から大学に行く方が楽だよ」と入学前にアドバイスをもらって、本当にその通りだったなと思いました。普通に大学受験するより受験科目も少なくなります。高校から大学に行くとしたら、選択肢が広すぎて選びきれなかったらどうかなと思います(笑)。

**Q** 「文化祭」は盛り上がる?  
**A** 来場者のための「七宝焼体験」は大好評でした。  
 毎年、文化祭は大いに盛り上がり、私は実験室を一部屋使って、「七宝焼」を実験室に体験してもらいました。体験型のイベントは好評で、そのときにキャンパスや授業のことなどの質問も受けていました。

**Q** 「ゼミナール」ってどういうもの?  
**A** テーマを決めて研究に取り組みます。  
 4年生になると、研究室を選び、テーマを決めます。私は機械材料の研究室で金属の「時効硬化」を研究しました。卒業後に大学に進むことを決めていたのですが、テーマ選択の時点で、先生は論理的なテーマをすすめてくれたのだと思います。とても意義深い経験でした。

**Q** 産技高専を卒業してよかったと思えるところは?  
**A** 私にとって産技高専は「いつでも帰ってこられる場所」。  
 自分が進みたい道に合わせて、具体的なアドバイスはたくさんもらえたことがうれしかったです。卒業後、大学3年生に編入したときも、随分となく研究に取り組みることができて、それも先生のおかけでした。何年経っても、いつでも先生たちが温かく迎えてくれる、私にとって、まさに母校です。

**Q** 男子と女子とで実習内容に違いがあったりする?  
**A** 基本的に、実習内容に男女差はありません。  
 荷物を運ぶと、男子は女子に軽いものを譲ってくれるといった違いはありましたが、実習や授業の内容で「女子だからなくていい」ということはありません。力が必要な場面があっても、だんだんできるようになっていく自分がうれしかったですね。

**Q** 卒業研究でのテーマはどうやって決めるの?  
**A** いくつかの候補の中から、やりたいものを選びました。  
 私がテーマに選んだのは「新型ペーパークーの新機能開発」。これは先生が提示してくれた複数のテーマの中から選びました。そこからどう研究に取りかんでいくかは、自分たちで考えます。4人で協力して共同研究を進め、製品を完成させることができました。その中で、私は女子の視点をうまく活かすことができたと思います。

**Q** 女子の先輩たちとは仲良くなれる?  
**A** 卒業してからもう連絡を取り合う仲です。  
 高専は5年制なので、最大4歳年上の先輩がいますが、とても仲良くなりました。特に部活の先輩には、「過去問ください」と勉強のことなども相談に乗ってもらったり、わからないところを教えてもらったりしました。女子ロッカー室は学年関係なく女子全員が利用するので、そこでよくしゃべりに花が咲きましたよ。

**Q** 卒業後の進路はいつ頃、どのように決めた?  
**A** 私は4年生のときに専門学校進学を決めました。  
 就職する人は、4年生の3月頃には就職活動を開始するようです。私も就職するつもりでしたが、父親を亡くしたことをきっかけに、医療機器メーカーではなく、医療現場で患者さんを支えたいという気持ちが強くなり、卒業後は資格取得のために専門学校に行くことを決めました。

**Q** 産技高専のどのコースに行こうか悩んだらどうすればいい?  
**A** より自分の興味に向く方に近いコースを選んで。  
 私の場合は最初から「医療機器」に興味があったので迷いはなかったのですが、たとえ同じ工学でも、機械なのか航空なのか情報なのか、日々の生活の中で「好き」と思えることは人それぞれです。迷ったらやはり一度キャンパスを見学することをおすすめします。

**Q** 産技高専を卒業してよかったと思えるところは?  
**A** 5年間じっくり学べて、学生生活を仲間と一緒に楽しめたこと。  
 5年間という年月は、はじめは長いと思ったけれど、部活動や文化祭など、勉強以外の活動にもじっくり取り組むことができて、思った以上に充実した学生生活でした。普通の高校に行っていたら、すぐに大学受験に集中しなければいけないし、自分の将来を具体的に考える時間はなかったかもしれないですね。

## 教えて! どうして産技高専を受験したの?

普通科の高校は、勉強する教科が中学と変わらず  
 面白くないと思ったんです。

勉強する科目が中学校とあまり変わらない普通科の高校には行きたくありませんでした。母の友人のすすめから、理系が好きだったこともあり、産技高専へ進む道を考えていました。見学に来てみたら、普通の高校とは全然違ってワクワクしたのをおぼえています。もともと医療機器に興味があったので、見学に行ったコースも「医療福祉工学コース」に決まりました。迷いはなかったですね。



**答える人** 黒澤香織さん Kaori Kurosawa  
**平成22年度 医療福祉工学コース卒業(産技高専)**  
 子どもの頃から機械が好きで、中学時代には医療機器に興味津々。それに携わる仕事に就けば、思う存分、機械の中を見たりさわったりできるのではないかと考えたのが、この道を選んだきっかけ。高専時代は奇術部に所属し、週4~5回は活動していたそうです。  
 奇術部は産技高専では歴史のあるクラブ